



第4回町議会定例会

今月号では、4月号に引き続き、3月定例会について、町長の町政執行方針と平成26年度各会計予算案についての総括質疑の内容をお知らせいたします。



総括質疑

林 幸雄 議員

農業基盤の整備と維持管理について

問 農業予算については、色々ご配慮いただいておりますが、過去の事業で整備した、排水溝や暗渠、農道等の中には、25年、30年経過しているものもあります。

答 今後の整備や維持管理について、どのようにお考えか伺います。

再問 排水改良等について、施工後の維持管理をどのように考えているかというご質問ですが、本町の農業を振興する上で一番大事なことは、土地基盤の整備だと考えています。

答 国営事業も終了し、道営事業では、小清水北地区、南地区の事業を交互に進め、土地基盤、暗渠、排水、区画整理

等、農業者の方々の要望に添えてきているつもりですし、今後も進めていきたいと考えています。

答 特に排水路について、心配しているのが、国営事業で整備した国営3幹線の排水に関する事です。

再問 現在、北斗と浜小清水に排水機場がありますが、設置後年数が経過しています。

答 このため、昨年、止別地区土地改良組合の組合長さんや地元の受益者の代表者の方々とも打ち合わせをしました。まずは機能診断を行い、結果に応じて整備していきたいと考えています。

再問 過去に整備した場所も、長年経過すると、水はけが悪くなりますし、機械の大型化に伴い、畑の出入り口の拡張も必要だと思います。

答 排水溝の整備や、取り付け道路の整備が遅れますと、農作業において格差がでてきますので、新たな整備事業も含めて取り組んでいただけないか伺います。

答

道路側溝や取り付け道路の整備については、全町広いので、一度に対応することはできませんし、関連する補助事業もありませんが、農業者の皆さま、道路愛護推進員の皆さま方を含めて、建設課と協議をして順次改善していきたいと思っております。

後継者対策について

問

農業後継者の花嫁対策に取り組まれていますが、農業後継者だけでなく、町の活性化も見込んでもっと幅広く、取り組む考えはないか伺います。

答

現在、農業委員会を中心として、農業後継者の花嫁対策を進めていますが、花嫁対策は非常に難しく、デリケートな問題でもありまして、人員や予算を増やせばよいということでもないように感じますので、当面、現行の体制で農

業後継者対策に絞って進めていきたいと考えています。

再問

小清水の農業を知っていただけに、農家の方々に協力いただいて、体験型のような方法でのアピールも必要ではないかと思いますが、どう考えますか。

答

体験型の農業実習も非常に大事だと思いますし、過去において、たくさんの方々の方々にお世話になって実習をされた事も聞いています。

再問 その点については、農業委員会を中心に連携を図って進めていきたいと考えています。

八木 勝正 議員

土曜授業について

問

本年度から実施される土曜授業について、将来的には一般教科の授業も取り組むという点ですが、土曜授業についての具体的な内容、目的

についてお尋ねします。

答

土曜授業の実施により生じた余剰時間を、平日の授業時間に組み込んで、反復学習する時間を確保し、学力を向上させることを目的としています。

再問 初年度については、土曜、日曜、祝日を含めて土曜授業とし、学校行事を優先して試行的に行うことを考えており、入学式や卒業式、運動会、学芸会、体育祭、文化祭、授業参観などがあてはまります。

再問 次年度以降は、学校と協議しながら、月1回程度、一般教科の授業ができるように考えています。

再問

土曜授業は学力向上を目的として考えているとのことですが、学力向上に関していえば、土曜授業は手段の一つではないかと思えます。学力向上について、土曜授業の他に今後どのようなことをお考えか伺います。

総括質疑

林 幸雄 議員

農業基盤の整備と維持管理について

問 農業予算については、色々ご配慮いただいておりますが、過去の事業で整備した、排水溝や暗渠、農道等の中には、25年、30年経過しているものもあります。

答 今後の整備や維持管理について、どのようにお考えか伺います。

再問 排水改良等について、施工後の維持管理をどのように考えているかというご質問ですが、本町の農業を振興する上で一番大事なことは、土地基盤の整備だと考えています。

答 国営事業も終了し、道営事業では、小清水北地区、南地区の事業を交互に進め、土地基盤、暗渠、排水、区画整理

答

小清水町の子供たちの学校にいる時間は、年間19%という統計がでていて、残りの81%は、地域や家庭にいる時間ということになります。

再問 基本的には、学校授業の中で学力を伸ばすことが大事と考えますが、少しでも多く家庭学習に取り組んでもらえるよう、学校から家庭に呼びかけていただき、新年度は家庭学習を大きな位置づけとして、学校の授業と連携しながら子供たちの学力向上につなげていきたいと考えています。

梶間 善高 議員

畑地かんがい用水の活用について

問

本町は豊かな農地と恵まれた気候ですが、近年において異常気象が多くなり、昨年は春先の低温、7月から高温、干ばつで農業者は打撃を受けたところで、本町には畑地かんがい設備

答

これ以上空き店舗が増えることは、消費者の不便に拍車をかけることにつながり、本町に居住し続ける上で大きな不安要素となります。

再問 国営の畑地かんがい用水を有効に活用するための調査研究については否定いたしません、国営で整備した農業用排水については、当初の使用目的に沿って利用しなければならぬ制約があります。

再問 その点を考慮の上、調査研究することは全く問題ないと思っております。必要も含めて、農協とも連携をとりながら検討していきたいと思っております。

再問 近年、長期にわたる景気低迷により、やむなく廃業する商店の空き店舗が目につく状況にあります。

答

空き店舗は個人の財産ですので、町が関与してどのように活用するかは非常に難しい問題だと思います。

再問

更に、再利用の方法としていくつかが提案くださいました、どのくらいの利用希望者がいるのか把握ができていないので、そのような要望があるのか調査も必要です。

いづれにしても、今の状況が良いとは思いませんので、今後機会があれば、色んな方々とも意見交換をさせていただきます。

工藤 孝一 議員

商店街の活性化対策について

問

近年、長期にわたる景気低迷により、やむなく廃業する商店の空き店舗が目につく状況にあります。